

共に生きる地域社会

今月の特集では、障がいがあっても地域の中で自分らしく活躍できる地域社会を創るために活動する方々をご紹介します。
障がいへの理解を深め、すべての人が安心して暮らせる地域社会について考えてみませんか。

社会の中で働く 就労に向けた支援

市内には、一般企業への就労が難しい方を支援する障害者就労継続支援事業の事業所（A型・B型）があります。今回、ご紹介する奥越ライフサポート(株)は、市内に3つあるA型事業所のうちの1つであり、身体や知的、精神(発達障害含む)な

どに障がいのある方が加工品の製造や清掃、草刈りなど様々な業務にあたっています。

社会の一翼を担う企業として

「地元の企業として利益を出し納税する。利用者の方も、賃金をもらい、納税する。そして行政サービスを受ける。一般の企業や社会人と同じように社会に参画・貢献していきたいと思っています」と社会の中の自分たちの役割を大切にしていると話す代表の宇野さん。

奥越ライフサポート(株)は、今年で9年目を迎えます。人手不足などで悩む企業を支えるという社会の役割を見出し、障がいがあるから仕方がないではなく、「こなら任せられる」と認められる企業として、社会の一翼を担ってこられました。

企業と連携し、一般就労への高いハードルを乗り越える

奥越ライフサポート(株)の利用者の方は、普段、週5日、4時間から6時間業務にあたるほか、一部の方は一般企業へ短時間働きに出たりしながら一般就労を目指されています。

「仕事やコミュニケーションの取り方などの経験を積みながら一般就労を目指しています」と話す利用者の方。

支援なしでは高いハードルとなる一般企業への就労も、地域の企業と連携することで、利用者の方は、少しずつ仕事に対して自信を持ち、一般就労への歩みを進めています。そんな奥越ライフサポート(株)の利用者からは、年に1〜2人が一般企業に就職しています。

インタビュー

寄り添いながら 一緒に一般就労を目指す



奥越ライフサポート(株)
サービス管理責任者
富田 恵子さん

利用者の方は、最初はできなくても、こちらのちょっとした支援や工夫できちんと仕事をこなせるようになります。
障がいは様々ですが、一人ひとりに適切な支援をするためにも、仕事のことだけでなく、普段の生活のことなども聞きながら、それぞれの個性を理解するよう心がけています。

働きやすく工夫された作業所内。

- ① 分かりやすい見本
- ② 用途によって色分けされた雑巾



連携企業に インタビュー

ビジネスパートナーとして

会社の社員一人ひとりの生産性を高めるため、業務の一部を任せられる企業はないかと探っていた時、奥越ライフサポート(株)さんと連携することになりました。

企業活動は、社会福祉への貢献だけでは続けることはできません。奥越ライフサポート(株)の皆さんは、頼れる仲間であり、ビジネスパートナーだからこそ、これまで連携を続けています。



(株)中吉商店
常務取締役
中村 泰啓さん



生活しづらいと感じた方の 「勝山市障害者 生活支援センター」

障がいや就労、人間関係など様々な悩みを持つ方の相談を受ける「勝山市障害者生活支援センター」(すこやか内)
センターでは、3人の相談員が相談者から受けた悩みを、病院や関係機関、企業などと協力しながら少しでも良い方向に向かうよう支援しています。

早めの相談を

近年、親が高齢になり、障がいのある子を援助できなくなり、困惑するケースが増えています。将来に不安を感じている方は、できるだけ早めにご相談ください。

コミュニケーションで 地域とのつながりを

職場やご近所に障がいのある方がおられたら、あいさつなど気軽にコミュニケーションをとってみてください。そのことが社会との繋がりになります。

障害者手帳を持っている、持っていないなどは気にせず、生活しづらさを感じている方は気軽に相談ください。
☎ 87・0666



相談員の皆さん。左から
森下さん、廣瀬さん、佐野さん